

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270500309		
法人名	医療法人守生会		
事業所名	医療法人守生会グループホームひまわり		
所在地	青森県五所川原市一ツ谷字一ツ谷508番地12		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>五所川原市の中央に位置し、赤いリンゴの並木道や公園、スーパーがあり、散歩に良い環境である。病院内にある施設である為、安心して生活でき、緊急時の対応もスムーズである。様々な年間の行事を通じ、ご家族や近隣の方々との交流の場があり、レクリエーションが充実している。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aokaigojyouth.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270500309&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成23年1月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>理念を午前中の活動時に職員が唱和しており、それに対し利用者も理解を示し、職員・利用者の相互理解が日々の実践の中で深められている。事業所は整形外科医院の4階ワンフロアーに居室、リビングキッチン、浴室、トイレを設置し運営している。既存の建物を改装し利用しているため構造上の制限があるが、利用者にとって居心地のよい空間となるよう工夫し、丁寧にしつらえられている。また、別フロアーに診療所もあり、診療所の医師や看護師などが、度々様子を見に来るなど医療連携がなされているので、利用者や家族も安心されている。地域でも事業所の存在が十分に認知されており、町内会や近所の小学校などと夏祭りや文化祭などを通じ、また普段からも声を掛け合うなどの相互交流を行っている。非常時なども利用者を受け入れさせていただけるように、近隣住民との連携も充実している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日1回体操時等を利用し、利用者の前で読み上げている。1日の運営がスムーズに行われるよう再確認し、サービス提供場面に反映している。	管理者と職員で検討し理念を作り上げている。職員は毎日、利用者の前で理念を唱和し、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣商店街への買い物や、納涼祭等の町内の行事に参加し、交流を行っている。又、ひまわり通信を近隣の協力委員の方々へ配布し、グループホームについて理解していただいている。	町内会に加入し、納涼祭や忘年会に参加するなど交流を図っている。近隣の方が協力委員になっており、事業所からの相談にのってくれたり支援をしてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業者主催の納涼祭への参加を促したり、町内会の行事に参加し、認知症の方との交流を行う機会を設けている。又、随時見学希望者に対応出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行われている運営推進会議に於いて、日々の利用者の様子や事業所の運営内容等を報告し、見直し改善に向けた取り組みを行っている。	運営推進会議は年6回実施されている。「避難場所が必要ではないか」、「利用者はスリッパより靴を履いたほうが安全ではないか」等の意見が上げられ、地域の協力も得ながら改善している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの広報誌を配布。事業所の運営についてアドバイスをいただき、又アフターケアについても相談にのっていただいている。月1回の市包括支援の会議に出席し、利用者の生活の質を高める為、課題解決に向けて研修の機会を設けている。	市町村担当者からは、他事業所で介護事故があれば同様のリスクがないか等の問い合わせが入ったり、周辺で停電が起きたときには非常食の備えがあるか等の連絡が入る。また、事業所からも運営上のこと等を相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に掲げてあるように『その人らしさを尊重し、安心して生活が出来る』環境づくりを行っている。虐待マニュアルがあり、身体拘束は行われていない。	身体拘束をしない為に転倒アセスメントシートでチェックし、家族へ説明しながら理解を得ている。落ち着かない利用者には常に見守りを継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内・職場外研修に参加し、学ぶ機会をもうけている。職員同士で注意できる環境作りにとりくんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している入居者が2名いる。事業・制度の必要性が見込まれる場合は、社協から説明を受け場を設け、活用できるように支援している。又、勉強会の機会を設け、定期的に学習している。情報を共有し理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分な説明を行っている。又、入所中にも状況に応じて家族と密に連絡を取り話し合い、利用者・家族からの理解を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の利用者とのコミュニケーションにて個別に意見を聞き入れている。家族の面会時に必ず何か気になる事はないか、気軽に話が出来るよう働き掛けている。アンケート実施や毎月の手紙に第三者へ意見を表出できるよう働き掛けている。	玄関にはアンケートとボックスが設置されており、家族や見学者も意見を表出できる。家族へ毎月送付している手紙にも、意見を表わせるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を実施し、職員からの意見・提案を聞いている。又、即実行し、運営に反映させている。	事業所会議には代表者も参加しており、職員の意見や提案は検討され、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の勤務状況を把握し、職場環境の整備に努めている。又、職員からも報告を漏れなく行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保されている。又、働きながらの資格所得等、職員も積極的に研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や研修での交流会等、同業者との交流を図っている。納涼祭での相互訪問等も行っており、情報交換し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込みの際本人と面接を行い、思いや要望又、不安に思っている事を伺い、安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談・申し込みの際、面談の上で困っている事や不安な事、又要望を受け止めて、把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際には、家族・本人の状況を見極め、等施設にこだわらず、本人に最も必要なサービスの情報提供も行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている能力に応じて、食材の下ごしらえ・食器拭き・洗濯物たたみをしていただく。又、野菜作りのノウハウ等を教わることで相互が支え合う関係を保っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当制とし、相互の情報交換のしやすい環境となっている。毎月のお便りでの報告、家族への協力の働きかけ、誕生会への参加等で、本人との関係が途切れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や馴染みの人への連絡を取り持つ等し、今まで関わってきた人や、場所への繋がりが途切れないように支援している。	教師をされていた利用者の同僚や教え子の訪問に際しても、家族と連絡を取り合い支援している。また、信仰が継続できるように会報を届けてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交友関係を把握し、孤立しないように職員が対応している。利用者の個性や力量に応じ、相互に支え合えるよう場面設定をし、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ、家族からの相談を受ける等して、今まで築いてきた関係を継続して行けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当スタッフを中心に本人との会話の中から思いや願いを把握し、希望が叶うよう支援している。又、ケアプランにも取り入れる。家族面会時には、本人の思いを伝え協力していただけるよう働きかけている。	利用者との会話の内容はカンファレンスで検討し、本人の思いの把握に努めている。また、家族の意向も確認しながら協力を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、家族又は担当のケアマネよりサービス利用の経過等を確認。センター方式の書式を利用し、本人の生活歴・現況を把握している。入所時には、馴染みの物を持参していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの一日の生活パターンを把握し、記録している。一日で変化する心身状態も把握、その都度対応している。一人ひとりの有する能力を把握する事により、軽作業等も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回行われているケア会議には、スタッフ全員が参加・又家族への参加を促している。家族へは、介護計画の内容説明を必ず面談・又は電話連絡にて報告又確認していただき、同意を得ている。	ケア会議ではプランの評価、現在の状況を確認し、今後のプランを検討している。例えば、長湯を希望される利用者には、安全面への配慮として、湯あたりしないようにタイマーを使用する等のアイデアを反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送りを実践。又申し送りノートへの記入や日中の気づきをトピックスとしてメモし、ケアプランの見直しやモニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人又は、家族からの希望(他施設紹介・通院希望等)がある場合は、最大限希望に添うよう努力している。又自主サービス(外出支援等)の提供が希望に添えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力委員の方へ、年四回広報誌を発行・配布しグループホームについて理解していただいている。又、運営推進委員として、グループホームの運営に協力いただき、交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族とかかりつけ医との信頼が確立している。医療連携体制にあり、いつでも適切な診療が行われている。	受診については本人や家族の意向を大切に、かかりつけ医を希望される方は継続して受診している。医療法人ではあるが近隣の専門医への受診も勧めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する医院と医療連携体制を整え、医療連携ノートの活用や、看護師の訪問を行い、適切な看護がスムーズに行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々の現況把握に努め、利用者・家族への連絡や相談を密にする。医療関係者には、随時利用者の代弁者として情報交換し、関係作りが良好に行われるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師・ケアマネ・管理者・スタッフが一緒にターミナルの方針について話し合う。本人・家族の思いに十分配慮し、数度の話し合いの場を設け、終末期の同意書を作成している。又、都度見直しを行っている。	終末期は利用者の状態変化の都度、家族に連絡し意向を確認しながら支援している。医師や看護師と方針の共有を図り、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの作成、研修・勉強会を実施し、急変や事故に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の医院との合同避難訓練以外にも、自主訓練を行っている。又、避難誘導の協力と、避難場所の提供を近隣の協力委員の方がサポートしてくれている。	母体である医院との合同避難訓練の他、事業所独自でも訓練を実施している。また、避難後の待機場所の提供を近隣の住民が協力してくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お名前は、「〇〇さん」と、さん付けにて行い、それぞれの利用者の生活歴等に応じながら、自尊心を傷つけないよう心掛けし、言葉かけや対応を行っている。	本人に確認をして、本人に合わせた呼びかけをしている。利用者も笑顔で応えられており良い雰囲気である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の日課の中で寄り添う時間を設け、本人の思いを聞き、個人として、又行事として行えるよう支援している。週1回の売店の訪問販売は、利用者の楽しみであり、自己決定にて購買している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、日課を強要せず、希望に沿って支援している。 (急な散髪・買い物等にも即対応。又、行事予定を発表し参加者を募っている。)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝本人の好みを聞き、着衣を準備する。 外出時、女性の方にはお化粧を施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の見やすい場所にメニューを表記。又料理の写真を用い、本人の希望を聞き、メニューに取り入れている。料理の簡単な下ごしらえや片付けをスタッフと利用者が一緒に行っている。	季節の料理や行事の料理は分かりやすく写真を見てもらい希望を伺っている。利用者は食材の皮むきや食後の下膳などを職員と一緒にこなしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを利用し、バランスのとれた食事を提供している。それぞれの体調や嗜好に応じ、調理方法を変え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者一人ひとりの口腔ケアの見守り・介助を行い清潔保持に努めている。毎夜、洗浄剤による洗浄も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者それぞれの排泄記録の確認や行動等を観察し、排泄時間を見極め声掛けし、スムーズなトイレ移動が行われている。失禁の際は、羞恥心に配慮し、速やかな交換が行われている。	トイレでの排泄を基本として、排泄表でチェックしている。また、時間誘導も試しながら本人の行動パターンを把握することで、排泄のタイミングを見極め、支援するように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	排便チェックシートを利用。乳製品や食物繊維の多い食品の提供、又運動・腹部マッサージ等により、自然排便が見られるよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴の曜日や時間は、利用者に事前報告し理解していただいている。個々の状況や、希望に添えるよう支援している。	週3回の入浴日を設定しているが、本人の希望時や汚染時にも柔軟に対応している。午後には足浴を毎日実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や室内の温度調整等本人のその時々状況に応じて、対応している。眠れない時は、いつでも寄り添い、安心して入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬・飲み忘れが無いよう声にして確認、又チェックシートへの記入にて、職員同士での徹底した確認を行っている。申し送りノートを利用し利用者の薬の内容・副作用・注意事項等を明記し、服薬の支援を安全に行えるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力量を把握し、利用者が無理なく参加できる役割や楽しみ事を支援している。(家事を行う・行事の際の挨拶・家長としての取りまとめ等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望者には臨機応変に支援している。又、年間行事にて、地域の方々との交流等が行われ、生活に活力が見られるよう支援している。	事業所の近くにスーパーや病院、公園などがあり個々の希望に合わせて外出している。また、季節のお祭りへも家族と連携し外出できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	売店の訪問販売時や外出時の物品購入時等、利用者本人が支払いできるように支援している。帳簿にて、入金時や残金確等を利用者本人に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞い・又贈り物などの礼状を家族等に送付している。電話が出来るよう支援している。利用者への電話や手紙は、歓迎している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花や掲示物等にて利用者に季節感を感じていただけるよう工夫している。又、それぞれの好みを聞き好きな音楽や、映像の提供等を行っている。	居間には行事に合わせて節分の飾りつけをしている。また、利用者の好きな歌謡曲をかけたり、時代劇や相撲のビデオを流すなどして楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれに気に入ったスペースがあり、お互い暗黙の了解がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族には、これまでの生活の様子を聞き個々の馴染みの物を持ってきていただいている。又、一人ひとりに合った空間作りが出来るよう相談し、居室作りを行っている。	各居室の入り口には見やすく大きな表札が掛けてあり、本人の好みの飾りつけがされている。居室には各人の日程表が記入されたカレンダーが掲示されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリーである。又、洗剤等の危険物は、施錠された状態で保管されている。生活空間としての特別な表記等はないが、利用者が自らホームの一員として生活している。		